

講義コード	515105401	
講義名	子ども家庭福祉 AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	後期	
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	2 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	女子短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	坪井 真	指定なし
専任教員	教務委員会（短大）	指定なし

授業の概要

子ども家庭福祉は、保育・幼児教育の仕事と深くかかわる社会福祉分野です。そこで本授業は、子どもの人権擁護、子ども家庭福祉の制度や実施体系、現代社会における子ども家庭福祉の意義・課題などを学び、子育て・親育ちを支援する子ども家庭福祉の重要性を理解します。

授業の到達目標及びテーマ

保育・幼児教育の仕事と深くかかわる子ども家庭福祉を理解するため、本科目では、以下の到達目標を位置づけます。

- (1)子どもの人権擁護について理解し、説明できる。
- (2)子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解し、説明できる。
- (3)子ども家庭福祉の歴史的変遷について理解し、説明できる。
- (4)現代社会における子ども家庭福祉の意義について理解し、考察することができる。
- (5)子ども家庭福祉の現状と課題および動向と展望について理解し、考察することができる。
- (6)主体的な姿勢で予習・復習およびアクティブラーニングに取り組むことができる。

また、学修成果評価マトリックスとの関連について、本科目は①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、特に①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力を重視します。

さらに本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「1. 諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と「2. 幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」および「8. 地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目に位置づけられます。

授業計画表

子ども家庭福祉

回	担当教員	項目	内容	予習	復習
		子ど		皆さんが本学の学びで	今回の授業内

第1回	坪井真	も家庭福祉の基本的考え方	①授業のガイダンス ②子ども家庭福祉の理念と概念（演習を含む）	得た関連知識および報道などで関心をもった関連事項などを振り返り、子ども家庭支援の特徴を再確認してください。	容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第2回	坪井真	子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向	子ども家庭福祉の歴史的展開（支援対象の多様化や社会的支援の形成など）と欧米をはじめとする諸外国の動向を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第3回	坪井真	子どもの人権擁護と現代社会における課題	子どもの人権擁護の歴史および子どもの人権擁護と現代社会における課題（子ども虐待やドメスティックバイオレンスなど）を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第4回	坪井真	子ども家庭福祉の制度・実施体制と施設・専門職	日本における子ども家庭福祉の法制度や実施体制、児童福祉施設の種類、子ども家庭福祉の専門職の特徴と実際を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第5回	坪井真	地域子育て支援と多様な保育ニーズへの対応	少子高齢社会における子ども・子育て支援制度の概要と多様な保育ニーズに対応するための仕組みを学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第6回	坪井真	母子保健と子どもの健全	母子保健と子どもの健全育成について、その意義や特徴（日本における母子保健サービスや健全育成事業の動向など）を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。

		成			い。
第7回	坪井真	前半の確認テスト	第1回から第6回の学習内容を振り返り、理解したことや考えたことを整理する確認テストに取り組みます。	前回の授業終了時に確認テストの予習箇所を提示します。第1回から第6回に該当する教科書や参考資料を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	確認テストの解答内容を振り返り、第1回から第6回の授業で学んだことを復習してください。
第8回	坪井真	貧困家庭や外国籍の子どもとその家庭への対応	貧困家庭や外国籍の子どもとその家庭への対応について、その特徴と現状（子育て世帯の貧困問題と支援策、外国籍の子どもと家庭に対する支援策、包括的な社会づくりに向けた保育所の役割など）を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを读解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第9回	坪井真	社会的養護の概要	子ども家庭福祉の重要な取り組み・仕組みに位置づけられる社会的養護の概要（基本的考え方と日本における社会的養護の特徴）を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを读解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第10回	坪井真	障がいのある子どもと家族に対する支援	障がいのある子どもと家族（特に保護者）に対する福祉制度・サービスの特徴と実際を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを读解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第11回	坪井真	少年非行などへの対応	子ども家庭福祉の観点から、少年非行の歴史的展開と現代の日本における状況、非行相談と施設入所との関係性などを学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを读解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第12回	坪井真	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進	子ども家庭福祉が担う次世代育成支援の特徴（子ども・子育て支援制度や認定こども園の現状と課題、「幼保連携」という考え方など）を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを读解し、理解したことや考察内容を復習してください。
		地域			

第13回	坪井真	における連携・協働とネットワーク	子ども家庭福祉の観点から、地域における連携・協働とネットワークの特徴（「連携・協働」の必要性、保育の実践場面における「連携・協働」の実際、子ども虐待防止にかかわる法制度の動向から読み解く「連携・協働」の重要性など）を学びます。	前回の授業終了時に教科書の予習箇所を提示します。教科書の該当箇所を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	今回の授業内容に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。
第14回	坪井真	後半の確認テスト	第8回から第13回の学習内容を振り返り、理解したことや考えたことを整理する確認テストに取り組みます。	前回の授業終了時に確認テストの予習箇所を提示します。第8回から第13回に該当する教科書や参考資料を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	確認テストの解答内容を振り返り、第8回から第13回の授業で学んだことを復習してください。
第15回	坪井真	総括	①第7回の授業で取り組んだ前半の確認テストおよび第14回の授業で取り組んだ後半の確認テストを解説します。 ②第1回～第13回の学習内容を振り返り、本科目全体の振り返りとまとめに取り組みます。	第1回～第13回の授業で学んだ内容（教科書や資料、自筆ノートなどの該当箇所）を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。	本科目全体（第1回～第13回）の学習内容を振り返り、理解したことや考察内容を復習してください。

授業時間外の学修

【予習】

次回の授業に該当する教科書を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。各回の予習には90分かかると想定されます。

第1回の予習は、皆さんが本学の学びで得た関連知識および報道などで関心をもった関連事項などを振り返り、子ども家庭福祉の特徴を再確認してください。

第2回以降の予習（但し、確認テストを実施する第7回・第14回は除きます）は、前回の授業終了時に教科書などの予習箇所を提示します。

【復習】

授業に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。各回の復習には90分かかると想定されます。なお、復習の成果は各自の成績評価に活用します。

各回の授業内容（但し、確認テストを実施する第7回・第14回は除きます）に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。

実務経験の有無

実務経験のある教員が担当する 例：企業団体の実務経験者・税理士・学校現場教員経験者・カウンセラー等

ディプロマポリシーとの関連

① 幼児教育者観	② 知識・技能	③ 実践力と実務能力	④ 人間性と協調性
◎	◎	◎	○

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)

理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行えていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行えていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
課題解決能力	他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができるとともに、解法が定まらない他者に的確なアドバイスができる	基本的に他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり、他からの支援を少し受けながら自身の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり、他からの支援を受けたとしてもなかなか自身の能力で課題を解くことが難しいので、できるだけ一緒に課題解決ができるよう支援している
レポート力（復習も含む）	テーマについて、授業で紹介した方法、もしくはそれに類する独自の手法を使った分析が十分になされている	テーマについて、授業で紹介した方法で分析が十分になされている	テーマについて、授業で紹介した方法で分析がなされている	テーマについての分析がなされていない

成績評価法（表形式）

	評価基準	備考
定期試験	70%	定期試験（期末試験）で授業内容全般の理解度を評価します。
小テスト等	0%	
成果発表	0%	
授業への貢献度	0%	
レポート	0%	
その他	30%	演習の成果、確認テスト（2回）、復習の学習成果により、学習状況を総合的に評価します。

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

チャット メール等の活用

アクティブラーニングの割合

--

総授業時間数の30%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
グループワークのディスカッションやディベート (議論の場と時間) 小テストや授業内レポートの活用	PBL(課題解決型授業)	授業後レポート

教科書

本科目は以下の教科書を使用します。

公益財団法人児童育成協会・他「新・基本保育シリーズ3 子ども家庭福祉」(中央法規出版
\2,200)

参考書

適宜、紹介します。

SDGsとの関連

4. 質の高い教育をみんなに

特記事項等

科目のナンバリング

SOB1202

学生へのメッセージ

保育・幼児教育の仕事は、子育て・親育ちを支援する子ども家庭福祉の仕組み(政策や法律など)や取り組み(実践)と深くかかわっています。また、子どもの権利を守り、子どもの最善の利益を尊重することが保育・幼児教育と子ども家庭福祉の共通基盤であることも理解してください。

研究室(訪問先等)

中央研究棟 230研究室

授業用E-mail

tsuboi@sakushin-u.ac.jp

成績評価法

- ①定期試験(期末試験)で授業内容全般の理解度を評価します。(全体の70%)
- ②演習の成果、確認テスト(2回)、復習の学習成果により、学習状況を総合的に評価します。(全体の30%)